

ブラジルのリオデジャネイロで夏期パラリンピック（リオパラリンピック）が二〇一六年九月七日から一八日まで開催された（以下、*tuoi tre online, Tin tức Báo Thanh Niên, Thể thao & Văn hóa, Wikipedia tiếng Việt* 掲載記事等に基づき記す）。

ベトナムからは重量挙げ、水泳、陸上に一一選手が参加した。ベトナムが初めてパラリンピックに参加したのは二〇〇〇年のシドニー大会のこと。アテネ大会では倍の四人、北京大会で八人、ロンドン大会では一人の選手が参加している。

ベトナムのパラリンピック協会副会長兼事務局長ヴ・テエー・フィエット氏によれば、今回派遣された選手のほとんどは困難な家庭事情を持ち、ベトナムの南部から参加している。

これまでの大会ではベトナムのメダル獲得者はゼロであったが、リオパラリンピックでは快挙が相次いだ。男子重量挙げ四九キロ級でレー・ヴァン・コン選手が金メダル、女子重量挙げ五〇キロ級でダン・ティ・リン・フォン選手が銅メダル、男子五〇メートル自由型S5（肢体不自由）でヴォ・タイン・トゥン選手が銀メダル、男子やり投げF56/57（車いす）でカオ・ゴック・フン選手が銅メダルと、計四人のメダリストが誕生した。さらに金メダルを獲得した重量挙げのコン選手にいたっては、一八三キロを持ち上げて自身の持つ世界記録を一キロ更新した。

本稿では、重量挙げのコン選手と競泳のタイン・トゥン選手について少し紹介したい。

コン選手はベトナム中部ハティン省の出身で一八八四年六月二〇日生まれ。母親が妊娠中にデング熱に罹り、両足に障害を持って生まれた。

家庭の生活が苦しく、一九歳の時に一人ホーチミン市に移り住んだ。木材の研磨、入力作業、電子機器の修理（職業学校にも通った）、宝くじの販売など、さまざまな生きる術を持つ。コン選手がホーチミン市内の障害者スポーツクラブで重量挙げに出会ったのは二〇〇五年のこと。友人に紹介されたのがきっかけだった。その数カ月後に開かれた全国大会でコン選手はすぐに二位に入った。

奥さんのチュー・ティ・タムさんはコン選手の出身地ハティン省に隣接するゲアン省出身。タムさんは二〇〇六年に南部に移り住んだ。出会いの後二人は互いに惹かれあっていたが、タムさんの両親から猛反対にあった。しかし、二人は思いを貫いて二〇〇八年に結ばれた。夫妻は二人の子どもに恵まれ、二〇一四年にホーチミン市の隣省ロンアン省に新居を構えて移り住んでいる。

九月二日、朝のホーチミン市タンソンニャット空港には、他の選手とともに帰国したコン選手を迎える妻と子ども達の姿があった。国家オリンピック委員会は、コン選手の功労に対し一万ドル（約二億二二〇〇万ドン）の報奨金を贈ることを決定した。これは、リオ五輪の射撃一〇メートルエアピストルでベトナム史上初めての金メダル、五〇メートルピストルで銀メダルを獲得したホアン・スアン・ヴィン選手に対する報奨金と同額である。

次のタイン・トゥン選手は、一九八五年七月二六日にメコンデルタに位置するアンザン省で生まれた。三人兄弟姉妹の長男。幼少時に悪性のポリオに罹り、両足が発育不全となった。親が漁業を営む関係で川とともに育った。その後アンザン省の隣に位置するメコンデルタの中心

地カントーに移り住んだ。二〇〇五年に拡声器が伝えるカントー市文化・スポーツ・観光局からのお知らせを耳にして障害者競泳大会の開催を知り、出場。大活躍したことが競技生活に入るきっかけとなった。

タイン・トゥン選手は高校卒業後、電子機器関係の専門中級学校で学び、大学で電子機器・通信部門の勉強を積んでおり、水泳だけでなく、電話修理などの生きる術を身に付けている。

伴侶との出会いにも偶然が作用しており、二〇一一年に練習から帰るバスの中で、たまたまホーチミン市に服の買い出しに来ていた、カントー市内で小さな洋服店を営むチュック・フォンさんに出会ったとのなれそめが、一部で伝えられている。

リオパラリンピック開催前の報道によると、夫妻は九月に誕生予定の第一子にリオパラリンピック出場を記念して「リオ」と名付けることを決めており、ベトナムのリオちゃんが生きているのではなからうか。

ベトナムには約七〇〇万人超の障害者が暮らす（二〇一四年末時点、人口の約七・八％）。筆者は何度か障害者のリハビリ施設を訪問したことはある。しかし、障害を持つ人達がスポーツに取り組み現場に伺ったことはまだない。筆者の見聞の狭さを示すものと反省している。

リオパラリンピックを契機として、さらに新たな才能が発掘され、育てられて、二〇二〇年の東京パラリンピックでは、ベトナム選手のさらなる飛躍、活躍がみられることを願っている。

（つらもと みのる／アジア経済研究所 東南アジアII研究グループ）